

読書の意義を 実感させる指導

～「自ら本に手を伸ばす
子供」を育てるために～

―読書指導の必要性―

(10)学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。

読書は、児童(生徒)の知的活動を増進し、人間形成や情操を養う上で重要であり、児童(生徒)の望ましい読書習慣の形成を図るため、学校の教育活動全体を通じ、多様な指導の展開を図ることが大切である。

小学校学習指導要領 総則 10 学校図書館の利活用（「解説」より
中高もほぼ同様の記述）

読書が自分や周りの生活に役立つという実感の積み重ねが、目的や必要に応じて「自ら本に手を伸ばす子供」（文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」2004年2月）の育成につながるという考え方があります。（参考資料：『自立した読み手が育つ読書生活デザイン力』杉本直美 東洋館出版社 2010年）今回は、読書の意義を実感させる読書指導の事例を紹介します。

二俣高校、天竜林業高校、春野高校 ― 高校生のための読書アクション ―

「読書アクション」は、読書離れの進む高校生に本を手にするきっかけを与えようと、昨年度から二俣高校で始められた取組です。その取組の一つに、高校生にすすめる本を高校生が選ぶ天竜文学賞があります。

天竜文学賞の選考は、北遠地区の3校（二俣高、天竜林業高、春野高）の生徒が参加して行われます。国語科教員が中心となってノミネートした5冊（選考基準：青春、自然、家族をテーマに描かれた小説）を希望した生徒に手渡します。生徒は、期間内に5冊を読み、各校で開かれる予備選考会に臨みます。



【白熱した議論が続く最終選考会】

そして、各校代表者による最終選考会で受賞する作品1冊を選出します。最終選考会では、「感受性豊かなこの時期にこそ、読んで欲しい作品」「高校生もいずれは社会に出て、経営に携わることになる。その際に役に立つのでは」など意見を述べ合いました。白熱した議論の末、本年度の受賞作は『ファミリーツリー』（小川糸 ポプラ社）に決定しました。

最終選考会に参加した生徒からは、「納得のいく結論に至るまで、話し合うことができました。」「同じ本でも人によって考えが違えることがわかりました。自分と違う意見が聞けてよかったです。」「今まであまり本を読まなかったけれど、このような取組があることを知り、本を読むきっかけとなりました。」「などという声が聞かれました。

～選考を通して社会参加～

「天竜文学賞を選考し、発信するということは、社会的責任を負う行為です。選ぶという前提で読書することで、集中して読み、公平に選ぶために深く考えるようになります。また、選考会では、考えたことを伝えるためのコミュニケーション能力や、相手の意見に耳を傾けようとする態度が育まれます。」と発案者の二俣高校校長鴻野先生はおっしゃいます。

「良い本と出会うことは、より良い人生と出会うことに繋がっている。」豊かな人間性を備えた人を育てるために、読書は不可欠です。本との出会いを創出するためのアクションが、北遠の地から広がっていくことを期待します。

島田市立五和小学校 ―交流で読書の意義を感じさせる―

2年国語科で『オアシス通り』をつくっておすすめの本を紹介しよう」という学習が行われました。児童は、教材文「すみれとあり」を読んだ後、自分の選んだ本（「生き物のひみつ」について書かれた本）を読み、おすすめの言葉をポップ（本の広告カード）に書き、本と一緒に中央廊下に展示して、他学年の児童に見てもらうという学習です。

授業は、担任と司書教諭がTTで行いました。「生き物のひみつ」をテーマにしたブックトークや「オアシス通り」をつくろうという投げかけで、子どもたちの意欲や関心が高まりました。

本が決まると、その中から自分が伝えたいことベスト3を付箋に書き出しました。司書教諭は書き出す際は言葉を選び、短くまとめて書くよう指導しました。書き出した付箋を使ってのグループ内交流では、自分が興味を持ったり、驚いたりしたことに、友達も同じように興味をもった姿を見てどの子も満足そうでした。



【「読んだよカード」で感想を交流】

付箋を基にポップを作り、本と一緒に展示しました。ポップを見て、本を手にして読んだ感想を書いてもらうように、「読んだよカード」も近くに置きました。色とりどりのポップとずらりと並べられた本は、多くの注目を集めました。「読んだよカード」で「いろいろな本を教えてくれてありがとう」というメッセージをもらったり、本を立ち読みする他の児童の姿を目にしたりすることで、自分たちの読書体験が他にも広がっていることを実感することができました。読書が自分たちの生活に役立っていることを実感させることが、今後の読書指導に求められる新たな視点です。



【展示された本を読む児童】

学校図書館を授業に活かすためのQ&A



Q. 来年度に向けて、授業で活用できる図書を選書していきたいと考えています。選書の際のポイントを教えてください。

A. 来年度、どの教科のどんな単元で図書館が活用されるのかを整理しましょう。教科部会や学年部会で話し合い、年間計画に位置づけることをおすすめします。特に、小学校では、指導要領の改訂を受け、教科書が変わります。それに伴って、学校図書館を活用する機会も増えます。

例えば、国語では、図書館や**百科事典**、**図鑑**、**年鑑**などの使い方を学ぶ単元や**伝記**を読んで生き方について考える単元があります。さらに、伝統的な文化と国語の特質に関する事項の新設を受け、**昔話**や**神話**、**俳句**や**短歌**、**ことわざ**や**故事成語**に関する学習も加わります。その他の教科でも、**資料を活用して調べる**内容が増えています。

また、国語の教科書には、**教材に関連した本**や**おすすめの本**がたくさん掲載されています。その数は、多いものでは6年間で520冊（H17年度版は140冊）にも上ります。（紹介図書のリストは出版社のホームページに掲載されています。）限られた予算を有効に活用するため、計画的な資料の充実が求められます。



「静岡県の学校図書館」は県ホームページ「読書県しずおかBook サイト」に掲載しています。